

【令和3年度 英語科授業改善推進プラン】

英語科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・CAN-DOリストに基づき、目標をもって英語活動に取り組める生徒
- ・失敗を恐れず、積極的に英語を話せる生徒
- ・中学校卒業後も、継続的に英語学習に主体的に取り組める生徒

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・音読において、積極的に声を出して取り組む生徒が多い。暗唱テストにも前向きに挑戦する生徒がいる反面、暗唱できない生徒も多い。 ・英単語を発する、読むことができるがそれを文字として書くことに苦手とする生徒がいる。	・宿題や英作文の課題などの提出率はよく英語に対する意欲が高い。 ・長文読解に苦手意識をもつ生徒がいる。 ・提出物、小テストの得点状況から、意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒の差が激しい。	・音読指導に重点を置き、暗唱なども行っているため、英単語を発する、読むことができるがそれを文字として書くことを苦手とする生徒がいる。 ・英語のテストで高得点を取る生徒と、点数の低い生徒の二極化が激しい。
指導上の課題	・英語への苦手意識から質問されたことに対し、即興で答えることができない生徒がいる。 ・英文を書く指導が足りない。ノートに本文を書き写すなど英文を書く機会を設けているが、定期的に授業内で英文を書く指導が必要である。	・英語による表現活動を増やす必要がある。スピーキングテストでは話すことを暗記して臨む生徒が多いため、日頃から、簡単な英文を使って自己表現をすることを指導することが必要。	・まとまった分量の長文読解問題に対する練習量が足りていない。 ・自分の意見や、質問されたことに対し、即興で答えることができない生徒が多い。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	・ディクテーションなどを通して、音を文字として認識させる。 ・家庭学習ではノート作りや単語練習、ワークで復習する習慣を身に付ける。 ・ドリル的な活動を増やし、正しく英文を書く練習を行う。 ・基本文の確認テストを行い、英単語、英文を正しく書く力を身に付ける。	・帯活動のドリルで基本文や重要表現などの復習を行い、知識を定着させる。 ・英作文問題や表現問題に多く取り組み、書くことによる英語表現力を身に付ける。 ・即興的な言語活動を取り入れ、暗記に頼らない姿勢を育てる。	・帯活動として、毎回の授業で長文を読む活動を行う。また、副教材として、受験を意識した問題を練習する。 ・即興的な表現練習の問題を多く行う。

指導面	・授業内で、音声と文字の関連性について意識を高めながら音読指導を行い、苦手な生徒も前向きに取り組めるようにする。 ・文法事項の定着を図るため、定期的に復習を取り入れる。三人称単数現在形や過去形など動詞が混乱しやすい単元では、英作文指導において、間違いに気付かせる機会を取り入れる。	・単元ごとにリスニングテストを行い、教科書の文法ポイントが定着できているかを確認する。 ・教科書の暗唱を教員の前で行わせ、生徒の音読の達成度を理解する。 ・文法事項の定着の観点から、自己表現などの英作文の機会を増やし、それらを添削し、繰り返し個別的な指導を行う。	・読み物教材の選別に留意し、偏りなく、あらゆる文章に対応することができるように指導する。 ・書く力を育成する観点から、例文提示や既習文法を活用させ、英文を書かせる機会を増やし、スモールステップで取り組ませる。
-----	---	---	---

評価

- | |
|---|
| ①授業アンケート結果による達成度評価
②パフォーマンステストの結果
③定期テストの結果 |
|---|